

REPORT  
2007  
9/26  
午前

# Momiji Health Care Society

[モミジヘルスケアソサエティ]



老人

## 「カナダ」という国から学んだ「共存」 ～モミジヘルスケアソサエティにて～

埼玉県 愛の泉 潮田暁広

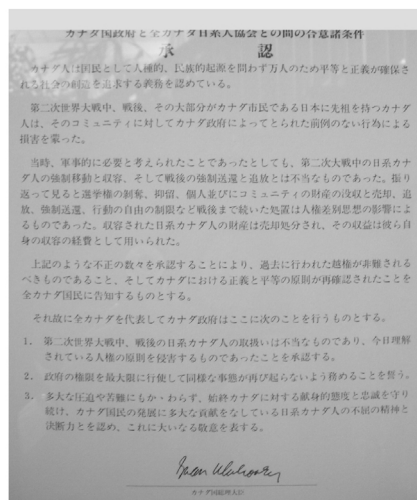
カナダは、移民国家と言われている。地域・州により公用語が違ったり、生活・文化様式も相違がある。そうした人びとが他の国と比べると、互いに差別や偏見なくうまく共存しているとのこと。その実情が、われわれが今回見学した日系人を対象とした「モミジヘルスケアソサエティ」や、中国系の「イーホンセンター」で見ることができた。

カナダという国で移民同士共存しているのに、何故、日系、中国系などという区分けされた福祉サービスが必要なのか？という疑問もあったが、施設を見学していく中で、その疑問は解けた。まさに「共存」しているのである。つまり、互いの民族がメジャーな民族の生活・文化に合わせて生活しているのではなく、メジャーもマイノリティーもなく、互いの民族の生活・文化を尊重しながら生活しているということである。カナダという、一見欧米の代表的な国でありながら、日系は日系の、中国系は中国系の、それぞれの文化の中で生活しているのである。その中で、年老いて介護が必要となったときに、その文化の中で介護（福祉）サービスを受ける、ということは、極めて自然なことであると感じた。

モミジヘルスケアソサエティの中で、日本語で書かれた「カナダ国政府と全カナダ日系人協会との間の合意諸条件」という文章を目にした（写真参照）。「共存」と言ったが、第二次世界大戦中、直後、カナダ国内においての日系人迫害という現実もあったようである。時が経ち、国家がその事実を認め、二度とそのような過ちが起きないように誓った文章で

ある。過ちがあったことを素直に認め、相手に対する敬意を表するということは、共存していく上で欠かせない姿勢であろう。

われわれの仕事に置き換えて考えてみると、「共存」、「利用者尊重」のような言葉を日常的に使っているが、カナダ国政府のような過ちを認める、そしてそれを変えていこうという、勇気ある姿勢がわれわれの中にどれだけあるのか、あったのか…、と考えさせられる部分がある。また、施設という集団生活の中で、利用者に不必要な我慢（施設文化の押し付け）をさせていることはないか、本当に「利用者尊重」（＝利用者のそれまでの生活・人生の尊重）ができていいのか…、極論かもしれないが、そんなことを感じた研修であった。



モミジヘルスケアソサエティ内に掲示されていた「カナダ国政府と全カナダ日系人協会との間の合意諸条件」